

## オープンアクセス・ムーブメント関連年表 [\(原文へのリンク\)](#)

(「フリーオンライン・スカラーシップ・ムーブメント関連年表」の改題)

本表において、オープンアクセス・ムーブメントとは、学術研究文献、特に査読雑誌論文とそのプレプリントに対してフリーなオンラインアクセスを提供するために世界中で行われた行動を指します。さらに詳しくお知りになりたい方は、私が別々書いている概論<sup>1</sup>やニュースレター<sup>2</sup>、ブログ<sup>3</sup>を参照してください。

本表に挙げる項目は、画期となった出来事に絞りました。また、スペースを節約するために記述は簡潔なものにしました。

現在のところ、たとえいかに重要であっても図書・論文・講演は意図的に除外してあります。しかし、将来はこれらを追加するつもりです。そのため、皆さんがどんな項目を追加すべきだと考えているかを知りたいと思います。オープンアクセスジャーナルやオープンアクセス e-プリントアーカイブについては、そのすべてを掲載するのではなく、オープンアクセスの概念を証明するために貢献した初期のパイオニアだけを掲載するつもりです。

参考のために、インターネットや World Wide Web の歴史に関する項目も若干数取り上げ、これら新しい技術の利点を研究者がいかに早く取り込んだかを示しました。これらの項目の日付は緑色で示してあります。

各項目にはできる限り年・月・日を付けるようにしました。月・日がない場合は、それが判明していないことを意味しています。年だけが判明している出来事は、その年の最初に示してあります。同様に、年・月が判明し日がわからない出来事は、その月の最初に示しました。

資料収集の優先順位による魔法に注意してください。私が一番よく知っているのは最近の発展です。また、一番興味があるのはこの運動の最初期の活動を発見・記録することです。そのため、年表の最初と最後に項目が集中することになっています。しかし、これは中間期に運動の低下があったことを意味するものではありません。画期となる出来事が追加されるにつれ、この種の魔法は消失するはずです。

本表への追加、修正、日付の特定などの情報を歓迎します。情報をお持ちの方は、ぜひ私にお知らせください。

ピーター・ズーバー (Peter Suber)

最終更新日: 2007 年 2 月 7 日

---

<sup>1</sup> <http://www.earlham.edu/~peters/fos/overview.htm>

<sup>2</sup> <http://www.earlham.edu/~peters/fos/newsletter/archive.htm>

<sup>3</sup> <http://www.earlham.edu/~peters/fos/fosblog.html>

## 1990 年以前

- **1963 年**。Ted Nelsonが「ハイパーテキスト」という語を造語。彼の発見<sup>4</sup>やハイパーテキスト・システムの歴史<sup>5</sup>については脚注のWebを参照のこと。
- **1966 年**。米国教育省教育研究・改善局と国立教育図書館 (National Library of Education) が Educational Resources Information Center (ERIC) を立ち上げる。
- **1966 年**。米国国立医学図書館 (National Library of Medicine) が Medline を立ち上げる (ただし、1997 年まではフリーではない)。
- **1969 年 4 月 7 日**。Steve Crockerが最初のRFC (Request for Comments) をリリースし、インターネット技術の開発に関する一連のフリーオンラインドキュメントの引き金となる。RFCの歴史についてはWeb<sup>6</sup>を参照のこと。
- **1969 年 8 月 30 日**。米国国防総省がAdvanced Research Projects Agency Network (ARPANET) の運用を開始。ARPANETの運用は 1990 年に終了。ARPANETの歴史についてはWeb<sup>7</sup>を参照のこと。
- **1970 年**。米国国立農学図書館 (National Agricultural Library) が Agricola (AGRICultural OnLine Access) を立ち上げる。
- **1971 年 7 月 4 日**。Michael Hart がプロジェクト・ゲーテンベルグ (Project Gutenberg) を開始。
- **1971 年末**。Ray Tomlinsonがネットワークを介した初の電子メールを送信。数通のテストメッセージの後に初めて送られたメッセージは、ネットワークを介した電子メールの存在を告知するものであった。その後すぐにメールによるディスカッションリスト (メーリングリスト) が登場したが、それがいつかは不明。メーリングリストの歴史に関してはWeb<sup>8</sup>を参照のこと。
- **1974 年**。スタンフォード線形加速器センター (Stanford Linear Accelerator Center: SLAC) とドイツ電子シンクロトロン研究所 (Deutsches Elektronen Synchrotron: DESY) の図書館が物理学分野のプレプリント文献の電子目録化を開始。これらの目録はまもなく、SPIRES (当初は、Stanford Physics Information Retrieval System、後、Stanford Public Information Retrieval System) のHEP (High Energy Physics) オンラインデータベースに統合された。SPIRES HEPの歴史についてはWeb<sup>9</sup>を参照のこと。
- **1979 年**。Tom Truscott, Jim Ellis, Steve Bellovin, Steve DanielがUSENETを立ち上げる。USENETの歴史についてはWeb<sup>10</sup>を参照のこと。

---

<sup>4</sup> [http://www.livinginternet.com/w/wi\\_nelson.htm](http://www.livinginternet.com/w/wi_nelson.htm)

<sup>5</sup> [http://www.livinginternet.com/w/wi\\_hyper.htm](http://www.livinginternet.com/w/wi_hyper.htm)

<sup>6</sup> <http://www.faqs.org/rfcs/rfc2555.html>

<sup>7</sup> <http://www.dei.isep.ipp.pt/~acc/docs/arpa.html>

<sup>8</sup> <http://www.livinginternet.com/l/li.htm>

<sup>9</sup> <http://library.cern.ch/HEPLW/6/papers/3/>

<sup>10</sup> [http://www.firstmonday.dk/issues/issue3\\_7/chapter2/](http://www.firstmonday.dk/issues/issue3_7/chapter2/)

- **1981年**。JISC (Joint Information Systems committee) が Joint Academic Network (JANET) の運用を開始。
- **1981年5月5日**。エール大学とニューヨーク市立大学の間でBITNET (Because It's Time Network) の運用が開始される。BITNETの歴史についてはWeb<sup>11</sup>を参照のこと。
- **1983年1月1日**。ARPANETがプロトコルをNCPからTCP/IPに切り替える。多くの人はこれをインターネットの誕生と考えている。この移行の計画についてはWeb<sup>12</sup>を参照のこと。
- **1985年9月21日**。ロナルド・レーガン大統領が「国家安全保障決定指令 189: 科学・技術・工学情報の伝達に関する国家方針 (National Security Decision Directive 189: National Policy On The Transfer Of Scientific, Technical And Engineering Information)」を発表。(中でも)「基礎研究の成果にはできる限り制限を設けないことがこの政権の方針である」が重要。
- **1987年7月**。ペルセウス (Perseus) プロジェクトが CD を使って開始された (1994年のWebへの移行まではフリーではない)。
- **1987年秋**。シラキュース大学ケロッグ (Kellogg) プロジェクトが『New Horizons in Adult Education』誌を創刊 (初期のフリーオンライン査読雑誌の一つ)。NHAЕの歴史についてはWeb<sup>13</sup>を参照のこと。
- **1987年11月**。ヴァッサー大学での会議に集まった人文学者、図書館員、コンピュータ科学者のグループがText Encoding Initiative (TEI) を発足。TEIの歴史についてはWeb<sup>14</sup>を参照のこと。
- **1989年**。『Newsletter on Serials Pricing Issues』誌が創刊される。NSPIの歴史についてはWeb<sup>15</sup>を参照のこと。
- **1989年**。Stevan Harnad が『Psycoloquy』誌を創刊 (初期のフリーオンラインジャーナルの一つで、1990年1月28日に査読誌となる)。Psycoloquy 誌のスポンサーは米国心理学会であるが学会の出版物ではない。
- **1989年6月**。Eddy van der Maarelの他、ほとんどの編集委員が『Vegetation』誌を辞任し、『Journal of Vegetation Science』誌の創刊へ。独立宣言<sup>16</sup>を参照のこと。
- **1989年8月16日**。Charles W. Bailey, Jr. が『The Public-Access Computer Systems Review』誌を創刊 (初期のフリーオンラインジャーナルの一つで、1992年4月から査読セクションが設定される)。

<sup>11</sup> <http://nethistory.dumbentia.com/archive.html>

<sup>12</sup> <http://www.faqs.org/rfcs/rfc801.html>

<sup>13</sup> <http://info.lib.uh.edu/pr/v2/n1/hugo.2n1>

<sup>14</sup>

<http://ninetta.emeraldinsight.com/Insight/viewPDF.jsp?Filename=html/Output/Published/EmeraldFullTextArticle/Pdf/1640210107.pdf>

<sup>15</sup> <http://epress.lib.uh.edu/pr/v2/n1/tuttle.2n1>

<sup>16</sup> <http://www.earlham.edu/~peters/fos/lists.htm#declarations>

## 1990 年

- 1990 年。Peter Scott が Hytelnet (オンラインハイパーテキスト機能を持つ最初のインターネットディレクトリ。特に、ネットワーク上で利用可能な図書館目録へのリンクで有名) を立ち上げる。
- 1990 年 9 月 21 日。『Electronic Journal of Communication』誌が創刊される (初期のフリーオンライン査読雑誌の一つ)。EJC の歴史については Web<sup>17</sup> を参照のこと。
- 1990 年 9 月 30 日。Eyal Amiran, Greg Dawes, Elaine Orr, John Unsworth が『Postmodern Culture』誌を創刊 (初期のフリーオンライン査読雑誌の一つ)。PMC の歴史については Web<sup>18</sup> を参照のこと。
- 1990 年 10 月。Tim Berners-Lee が、最初の Web クライアントと Web サーバを書く (1991 年 3 月リリース)。Berners-Lee は、1990 年 11 月 12 日に「WorldWideWeb: Proposal for a HyperText Project」を発表し、1990 年 11 月 13 日には最初の Web ページを書いた。
- 1990 年 11 月。『Bryn Mawr Classical Review』誌が創刊される (初期のフリーオンライン査読雑誌の一つ)。BMCR の歴史については Web<sup>19</sup> を参照のこと。

## 1991 年

- 1991 年。Paul Lindner と Mark McCahill が Gopher をリリース。
- 1991 年。Jean-Claude Guédon が『Surfaces』誌を創刊 (初期のフリーオンライン査読雑誌の一つ)。
- 1991 年 2 月 4 日。『Behavioral and Brain Sciences』誌 (非オープンアクセス誌) が受理論文 (ただし、意見とその回答は除く) を収容するオープンアクセスの FTP プレプリント・アーカイブを立ち上げる。その後、1993 年にはオープンアクセスの Web アーカイブとなり、1999 年には OAI 準拠の e-プリントアーカイブである BBSprints となる。
- 1991 年 4 月。Edward M. Jennings が『EJournal』誌を創刊 (初期のフリーオンライン査読雑誌の一つ)。EJ の歴史については Web<sup>20</sup> を参照のこと。
- 1991 年 5 月 17 日。CERN と Tim Berners-Lee が World Wide Web 標準をリリース。
- 1991 年 7 月 2 日。Allan Bromley が、現在では「地球変動」データに対する完全かつオープンなアクセスのための「ブロムリー原則」として知られる意見を、1991 年 7 月 2 日付の「地球変動研究におけるデータ管理に関する政策綱領 (米国科学技術政策室)」において発表した。

---

<sup>17</sup> <http://epress.lib.uh.edu/pr/v2/n1/harrison.2n1>

<sup>18</sup> <http://epress.lib.uh.edu/pr/v2/n1/amiran.2n1>

<sup>19</sup> <http://www.pum.umontreal.ca/revues/surfaces/vol4/odonne1.html>

<sup>20</sup> <http://epress.lib.uh.edu/pr/v2/n1/jennings.2n1>

- 1991年7月10日。テキサス大学オースティン校のH. Koch, R. de la Llave, C. Radin が Mathematical Physics Preprint Archive (mp-arc) を立ち上げる。
- 1991年8月16日。Paul Ginsparg が arXiv を立ち上げる。

## 1992年

- 1992年。Computer Science Technical Reports (CS-TR) プロジェクトが開始される。プロジェクトは1996年に終了。CS-TRの歴史はWeb<sup>21</sup>を参照のこと。
- 1992年。全米バイオテクノロジー情報センター (National Center for Biotechnology Information: NCBI) が Entrez サービスを開始 (CDによるものであり、1993年まではフリーではなかった)。
- 1992年。NCBI が GenBank サービスを開始。
- 1992年。Ibiblio が立ち上げられる。当初は SunSite におけるパブリックドメインのソースコードリポジトリとして構築され、2000年9月に現在の名称を採用。
- 1992年3月。Interest Group in Pure and Applied Logics が『Logic Journal of the IGPL』誌を創刊 (初期のフリーオンライン査読雑誌の一つ)。
- 1992年4月27日。研究図書館協会 (Association of Research Libraries: ARL) と米  
国大学出版協会 (Association of American University Press: AAUP) の後援で第1回  
「電子ネットワーク上の学術出版に関するシンポジウム: 非営利出版のビジョンと機  
会 (Symposium on Scholarly Publishing on the Electronic Networks: Visions and  
Opportunities in Not-for-Profit Publishing)」が開催される。
- 1992年12月5-8日。ARL と AAUP の後援で第2回「電子ネットワーク上の学術出版に  
関するシンポジウム: 非営利出版のビジョンと機会」が開催される。
- 1992年12月13日。スウェーデンのリンショーピング大学がプロジェクト・ルーネベリ  
(Project Runeberg) を開始。

## 1993年

- 1993年。オーストラリア・アボリジニ・トレス海峡諸島民文化研究所 (Australian Institute of Aboriginal and Torres Strait Islander Studies: AIATSIS) が gopher を使って Aboriginal Studies Electronic Data Archive (ASEDA) を立ち上げる。1994年にはWeb版が登場した。
- 1993年。トロント大学図書館とブラジルの環境情報資料センター (Reference Center on Environmental Information) が Bioline International を立ち上げる。BIは、2004年2月まではオープンアクセスと有料アクセスが混在したが、その後完全にオープンアクセ

<sup>21</sup> <http://www.cnri.reston.va.us/describe.html>

スに移行した。BIの歴史についてはWeb<sup>22</sup>を参照のこと。

- 1993年。Network Entrez のサービスが開始され、有料の CD ベースのサービスがネットワーク経由のフリーアクセス (Web ベースではない) に置き換えられる。
- 1993年。Harry Platinga が Christian Classics Ethereal Library を立ち上げる。
- 1993年1月。Steven H. van Leeuwen がプロジェクト・バートルビー (Project Bartleby) を開始。
- 1993年1月14日。NASAラングレー研究センターがLangley Technical Report Server (研究論文のオープンFTPサービス) を立ち上げる。1993年2月10日にはWAISサーバが追加された。Web版のサービスは1993年8月に開始された。LTRSの歴史<sup>23</sup>やWeb版<sup>24</sup>についてはWebを参照のこと。
- 1993年1月19日。Gene Glass が『Education Policy Analysis Archives』誌を創刊 (初期のフリーオンライン査読雑誌の一つ)。
- 1993年2月。米国国立スーパーコンピュータ応用研究所 (National Center for Supercomputing Applications: NCSA) と Marc Andreessen が Mosaic のアルファバージョンをリリース。
- 1993年2月1日。Thomas Krichel が Working Papers in Economics (WoPEc) を立ち上げる。
- 1993年4月。ミルトン・S・アイゼンハワー図書館とジョン・ホプキンス大学 (JHU) 出版局がプロジェクト MUSE (PM) を開始。PM はオープンアクセスではないが、オンライン配布の先駆者であった。PM はフリーのオンライン・フルテキスト検索を提供し、JHU 出版局は著者に著作権保有を認めた。
- 1993年4月。Pierre Cubaud が Association des Bibliophiles Universels (ABU) を立ち上げる。
- 1993年4月30日。CERN は、基本的な Web ソフトウェアをパブリックドメインとし、これに関するすべての知的所有権を放棄し、これを無償で「使用、複製、変更、再配布」する許可をすべての人に与えると発表した。この歴史的な文書に署名したのは、研究部長の W. Hoogland と管理部長の H. Weber である。
- 1993年5月。Marc VanHeyningen とインディアナ大学が Unified Computer Science Technical Report Index (UCSTRI) を立ち上げる。UCSTRIの歴史はWeb<sup>25</sup>を参照のこと。
- 1993年6月。John Mark Ockerbloom が Online Books Page を立ち上げる。
- 1993年8月。インディアナ大学が『The Electronic Journal of Analytic Philosophy』誌を創刊 (初期のフリーオンライン査読雑誌の一つ)。
- 1993年11月。CERN がプレプリント・サーバを立ち上げる。

---

<sup>22</sup> <https://tspace.library.utoronto.ca/handle/1807/71>

<sup>23</sup> <http://techreports.larc.nasa.gov/ltrs/ltrs.html>

<sup>24</sup> <http://techreports.larc.nasa.gov/ltrs/PDF/tm109162.pdf>

<sup>25</sup> <http://www.cs.indiana.edu/ucstri/paper/paper.html>

## 1994 年

- 1994 年。米国の国立科学財団 (National Science Foundation: NSF) とその他の連邦政府機関が Digital Libraries Initiative を開始。
- 1994 年。スタンフォード大学図書館が HighWire Press を発足 (この年の秋または冬)。
- 1994 年。ヒトゲノム・プロジェクト (Human Genome Project) がオープンアクセスの Web サイトを立ち上げる。プロジェクト自体は 1990 年に開始。プロジェクトの歴史については Web<sup>26</sup> を参照のこと。
- 1994 年。DARPA と NSF が既存の 2 つのプロジェクト、CS-TR と WATERS を統合して、Networked Computer Science Technical Reference Library (NCSTRL) を立ち上げる。NCSTRL は 2001 年にサービスを停止したが、OAI 準拠の形で復活する可能性がある。NCSTRL の歴史については Web<sup>27, 28</sup> を参照のこと。
- 1994 年。ペルセウス・プロジェクトが無料の Web 版を開始 (従来は有料の CD によるサービス)。
- 1994 年。Gunter Hille がプロジェクト・グーテンベルグ・ドイツ (Projekt Gutenberg-DE) を開始。
- 1994 年 1 月 16 日。オールド・ドミニオン大学コンピュータ科学部、ニューヨーク州立大学バッファロー校、バージニア大学、バージニア工科大学が Web 上で Wide Area Technical Report Service (WATERS) を立ち上げる。(WATERS は 1992 年スノーボードで開催されたコンピュータ科学部長会議における議論から生まれた。Web を使わない形態があったかもしれないが、これについては現在調査中である。) WATERS の歴史については Web<sup>29</sup> を参照のこと。
- 1994 年 3 月。National Academies Press 社が販売中のすべての図書について無料のオンライン・フルテキスト版を作成し、これが図書の販売を促進することを立証する実験を開始。
- 1994 年 6 月。NASA が同機関に分散して存在する多くの LTRS 由来のデジタル・ライブラリを検索する NASA Technical Report Server (NTRS) を立ち上げる。NTRS は 2003 年 5 月に OAI 準拠となる。
- 1994 年 6 月。アイダホ大学図書館が『Electronic Green Journal』誌を創刊 (初期のフリーオンライン査読雑誌の一つ)。
- 1994 年 6 月 27 日。Stevan Harnad が初めてセルフ・アーカイビングを提案 (Harnad による 10 年後の感想も参照のこと)。

---

<sup>26</sup> [http://www.ornl.gov/sci/techresources/Human\\_Genome/project/timeline.shtml](http://www.ornl.gov/sci/techresources/Human_Genome/project/timeline.shtml)

<sup>27</sup> <http://wotan.liu.edu/home/kriche/papers/mitaka.html>

<sup>28</sup> <http://128.82.7.99/ncstrlprop.doc>

<sup>29</sup> <http://archive.ncsa.uiuc.edu/SDG/IT94/Proceedings/Databases/maly/maly.html>

- 1994年9月。NASAのAstrophysical Data System (ADS) がNTRSに併合される。
- 1994年9月。『Electronic Journal of Sociology』誌が創刊される（初期のフリーオンライン査読雑誌の一つ）。
- 1994年10月。Wayne MarrとMichael JensenがSocial Science Research Network (SSRN) を立ち上げる。SSRNの歴史についてはWeb<sup>30</sup>を参照のこと。
- 1994年11月28日。1917年に創刊された雑誌『Florida Entomologist』誌がオープンアクセスに移行。1999年4月28日までに1917年からのすべてのバックナンバーもオープンアクセスとなる。

## 1995年

- 1995年。Norbert Gugerbauer がドイツ法および法学に関するオープンアクセスポータルであるJuslineを立ち上げる。
- 1995年4月。T. D. Wilsonが『Information Research』誌を創刊（初期のフリーオンライン査読雑誌の一つ）。
- 1995年5月21日。HighWire Pressが最初の提供・共同出版雑誌である『Journal of Biological Chemistry』誌を発表。
- 1995年6月。フェルミ国立加速器研究所（Fermi National Accelerator Laboratory: FNAL）がプレプリントサーバを立ち上げる。プロジェクトの歴史についてはWeb<sup>31</sup>を参照のこと。
- 1995年6月。インディア大学が『Journal of Computer-Mediated Communication』誌を創刊（初期のフリーオンライン査読雑誌の一つ）。
- 1995年7月。『D-Lib Magazine』誌が創刊される。
- 1995年9月。Edward ZaltaがStanford Encyclopedia of Philosophyを立ち上げる。
- 1995年秋。ミシガン大学とコーネル大学がメロン財団の助成を受けて Making of America を立ち上げる。

## 1996年

- 1996年。Electronic Publishing Trust for Development (EPT) が発足。
- 1996年。バージニア工科大学が Networked Digital Library of Theses and Dissertations (NDLTD) を立ち上げる。
- 1996年1月1日。『Journal of Clinical Investigation』誌がオープンアクセスに移行（ただし、オープンアクセスという語は使用していない）。同誌は米国臨床試験学会

<sup>30</sup> <http://ssrn.com/update/general/mjensen.html>

<sup>31</sup> <http://lss.fnal.gov/archive/tm/TM-2004-rev.pdf>



が1926年に創刊。(初期のフリーオンライン査読雑誌の一つ)

- 1996年2月。Michael Eberle-Sinatraが『Romanticism on the Net』誌を創刊(初期のフリーオンライン査読雑誌の一つ)。
- 1996年2月28日。ヒトゲノムシーケンスに関する国際戦略会議の参加者が「バーミューダ原則(Bermuda principles)」を発表。同原則では「大規模ヒトシーケンス解析のための助成を受けたセンターにより作成されたすべてのヒトゲノムシーケンス情報は、パブリックドメインとし、自由に利用できるようにするべきである」と主張している。1996年4月9日、米国国立ヒトゲノム研究所(National Human Genome Research Institute: NHGRI)が米国の助成によるすべての研究に対する方針としてバーミューダ原則を採用。
- 1996年5月10日。『Nordic Journal of Philosophical Logic』誌が創刊号を刊行(有料の冊子体版を持つ初期のフリーオンライン査読雑誌の一つ)。同誌は、2003年1月にオープンアクセス版の提供を終了しなければならなかった。
- 1996年6月。Brewster KahleがInternet Archiveを立ち上げる。
- 1996年10月25日。Charles W. Bailey, Jr.のScholarly Electronic Publishing Bibliograph(SEPB)第1版が登場(初期電子版を網羅した最初のオンライン書誌)。SEPBの歴史についてはWeb<sup>32</sup>を参照のこと。

## 1997年

- 1997年。ドイツ研究協会(Deutsche Forschungsgemeinschaft: DFG)が歴史的な図書館資料のデジタル化プロジェクトを開始。後にゲッティングゲンデジタル化センター(Göttinger Digitalisierungs-Zentrum)となる。
- 1997年3月。サン・パウロ科学財団(São Paulo Science Foundation: FAPESP)とラテンアメリカ・カリブ海健康科学情報センター(Latin America and Caribbean Center on Health Sciences Information: BIREME)がSciELO(Scientific Electronic Library Online)を立ち上げる。SciELOの歴史についてはWeb<sup>33</sup>を参照のこと。
- 1997年3月21日。ミシガン大学のMaking of America デジタルライブラリがJohn Price-WilkinによるDigLib メーリングリストへの投稿により初めて報告される。
- 1997年3月25日。University Provosts' Initiativeが発足される。
- 1997年5月12日。Thomas KrichelがResearch Papers in Economics(RePEc)を立ち上げる。
- 1997年7月26日。NCBIがPubMedサービスを開始。同時に、既にオンラインで提供されていたMedlineのコンテンツがPubMedに併合されフリーとなる。その立ち上げについて

<sup>32</sup> <http://www.press.umich.edu/jep/07-02/bailey.html>

<sup>33</sup> [http://www.scielo.org/model\\_en.htm](http://www.scielo.org/model_en.htm)

はWeb<sup>34</sup>を参照のこと。

- **1997年8月19日**。Stevan Harnad が CogPrints を立ち上げる。
- **1997年9月**。Rob “CmdrTaco” Malda が Slashdot を立ち上げる。多くの人は Slashdot を最初のブログだと考えている。

## 1998年

- **1998年**。Stefano Ghirlanda が「学術成果の配布を自由にキャンペーン：別名フリー・サイエンス・キャンペーン (Campaign for the Freedom of Distribution of Scientific Work: aka Free Science Campaign)」を始める。
- **1998年**。International Consortium for the Advancement of Academic Publication (ICAPP) が発足。
- **1998年**。『Journal of Academic Librarianship』誌のほとんどの編集委員が辞任し、『Portal: Libraries and the Academy』誌の創刊へ。(FOSN 2001年10月26日号参照)。独立宣言も参照のこと。
- **1998年1月**。古典学者のグループが10世紀ビザンチンの百科事典を共同で翻訳するオープンアクセスの翻訳サイトである Suda On Line を立ち上げる。
- **1998年3月27日**。「サンノゼ宣言 (Declaration of San José)」が公表される。(FOSN 2002年1月30日号参照)
- **1998年5月**。科学出版物入手のための国際ネットワーク (International Network for the Availability of Scientific Publication: INASP) が African Journals Online (AJOL) を立ち上げる。
- **1998年6月**。NEC 研究所が CiteSeer (ResearchIndex と呼ばれることもある) を立ち上げる。
- **1998年6月**。ARL が Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition (SPARC) を発足。
- **1998年8月25日**。『American Scientist』誌が Stevan Harnad をモデレータに September98Forum (後に、American Scientist Open Access Forum と呼ばれる) メーリングリストを開始。
- **1998年8月4日**。スタンフォード大学学術評議会図書館委員会の Stephen Boyd らが「信頼できる学術出版者のための声明書 (Manifesto for Responsible Scholarly Publishers)」を公表。
- **1998年9月**。ACM、arXiv、NCSTRL、AAAI が共同で Computing Research Repository (CoRR) を立ち上げる。
- **1998年10月**。David Shulenburger が National Electronic Article Repository (NEAR)

---

<sup>34</sup> <http://www.ncbi.nlm.nih.gov/Web/Newsltr/aug97.pdf>

を提案。

- 1998年11月。Michael Rosenzweig とその他の編集委員が『Evolutionary Ecology』誌を辞任し、『Evolutionary Ecology Research』誌の創刊へ。独立宣言を参照のこと。

## 1999年

- 1999年。Open Archives Initiative (OAI) が発足。OAIの歴史についてはWeb<sup>35</sup>を参照のこと。
- 1999年。Open Citation Project (Opcit) が開始される。
- 1999年。Open Society Institute (OSI) が Electronic Information for Libraries Direct (eIFL Direct) を立ち上げる。
- 1999年4月22日。エール大学メディカルスクールのカッシング・ホワイトニー医学図書館が Jointly Administered Knowledge Environment (jake) を立ち上げる。
- 1999年4月26日。BioMed Centralがすべての雑誌にフリーオンラインアクセスを提供する計画を発表。BMCの歴史についてはWeb<sup>36</sup>を参照のこと。
- 1999年5月5日。Harold VarmusがE-Biomedを提案。E-Biomedの歴史についてはWeb<sup>37</sup>を参照のこと。
- 1999年7月1日。UNESCO-ICSU 世界科学会議が「科学と科学知識の利用に関する世界宣言 (Declaration on Science and the Use of Scientific Knowledge) 」を発表。
- 1999年10月21日。サンタフェ会議 (1999年10月21-22日開催) において Universal Preprint Service (UPS) のプロトタイプが公開され、検討が行われる。UPSは結局、Open Archives Initiative (OAI) へと発展した。UPSの歴史についてはWeb<sup>38</sup>を参照のこと。
- 1999年10月22日。サンタフェ規約 (Sante Fe Convention) が発表される。サンタフェ規約の歴史についてはWeb<sup>39</sup>を参照のこと。
- 1999年11月。『Journal of Logic Programming』誌の全編集委員 50 名が辞任し、『Theory and Practice of Logic Programming』誌の創刊へ (FOSN 2001年5月11日号参照)。独立宣言も参照のこと。
- 1999年12月。物理学雑誌の出版者である米国物理学会 (American Physical Society: APS) が arXiv のミラーサイトを構築。

## 2000年

- 2000年。Cross-Archive Searching Service (ARC) が立ち上げられる。

---

<sup>35</sup> <http://www.oaforum.org/tutorial/english/page2.htm>

<sup>36</sup> <http://www.infotoday.com/it/jan05/poynder.shtml>

<sup>37</sup> <http://rkcsi.indiana.edu/archive/CSI/WP/wp01-03B.html>

<sup>38</sup> <http://www.dlib.org/dlib/february00/vandesompel-ups/02vandesompel-ups.html>

<sup>39</sup> <http://www.dlib.org/dlib/february00/vandesompel-oai/02vandesompel-oai.html>

- 2000年1月。『Archives of Insect Biochemistry & Physiology』誌の編集者 Henry Hagedorn が辞任（実際の離任は2000年7月）し、『Journal of Insect Science』誌の創刊へ。独立宣言を参照のこと。
- 2000年2月。PubMed（引用情報と摘要へのフリーアクセス）を補完するPubMed Central（論文全文へのフリーアクセス）が立ち上げられる。PubMed Centralの歴史についてはWeb<sup>40</sup>を参照のこと。
- 2000年5月10日。「学術出版新興システムに関するテンペ原則（Tempe Principles For Emerging Systems of Scholarly Publishing）」が発表される。
- 2000年5月16日。カリフォルニア工科大学図書館が Collection of Open Digital Archives (CODA) を立ち上げる（2002年9月に「Caltech CODA」と命名）。
- 2000年7月11日。国際連合経済社会理事会の閣僚宣言が「知識と情報への全面的アクセス」（第15項）を求める。
- 2000年7月19日。BioMed Central がフリーオンライン論文第1号を公開。
- 2000年9月29日。サウサンプトン大学が e-プリント・アーカイビングのための OAI 準拠のソフトウェア EPrints をリリース。

## 2001年

- 2001年。『Topology and Its Applications』誌の一部の編集員が辞任し、『Algebraic and Geometric Topology』誌の創刊へ。独立宣言を参照のこと。
- 2001年。Manfredi La Manna が Electronic Society for Social Science (ELSSS) を立ち上げる。
- 2001年。Networked Computer Science Technical Reference Library (NCSTRL) が再開。
- 2001年1月。INASP が Programme for the Enhancement of Research Information (PERI) を立ち上げる。
- 2001年1月15日。Jimmy WalesがWikipediaを立ち上げる（Wikipediaの歴史についてはWeb<sup>41, 42</sup>を参照のこと）。
- 2001年3月23日。Public Library of Science (PLoS) の立ち上げを告げる投書が『Science Magazine』誌に掲載される。PLoSの歴史についてはWeb<sup>43</sup>を参照のこと。
- 2001年3月28日。Peter Suber が『Free Online Scholarship Newsletter (FOSN)』誌を創刊。2003年7月4日号以降は『SPARC Open Access Newsletter (SOAN)』と改名。非購読者もバックナンバーの閲覧や検索が可能である。

<sup>40</sup> <http://rkcsi.indiana.edu/archive/CSI/WP/wp01-03B.html>

<sup>41</sup> <http://en.wikipedia.org/wiki/Wikipedia#History>

<sup>42</sup> <http://features.slashdot.org/article.pl?sid=05/04/18/164213&tid=95>

<sup>43</sup> <http://www.plos.org/about/history.html>

- 2001年4月27日。「ハバナ宣言 (Declaration of Havana)」が公表される。(FOSN 2002年1月23日号参照)
- 2001年6月2日。Ellen Roche 死去。(FOSN 2002年8月23日号参照)
- 2001年9月1日。オーストラリア国立大学がオーストラリアにおける初の OAI 準拠の機関アーカイブである E-Print Repository を立ち上げる。
- 2001年9月1日。PLoS が公的なアーカイブを介したコンテンツの無償アクセスに同意するよう学術雑誌に求めた公開状で設定された期限日。
- 2001年10月8日。『Machine Learning』誌の編集者40名が(9ヶ月前に行われた)辞任を説明する公式書簡を発表。辞任した編集者の一人である Leslie Pack Kaelbling は『Journal of Machine Learning Research』誌を創刊。(FOSN 2001年10月12日号、10月19日号参照) 独立宣言も参照のこと。
- 2001年10月21日。Internet Archive が Wayback Machine を立ち上げる。
- 2001年12月3日。『Nature』、『Science』および第三世界科学アカデミー (Third World Academy of Sciences) が SciDev を立ち上げる。(FOSN 2002年1月23日号参照)
- 2001年12月9日。フランス科学アカデミーが支払いを求めている著者の科学出版物に対しは通常の著作権規則を適用しないよう欧州委員会に呼びかける公式声明を発表。(FOSN 2002年2月14日号参照)
- 2001年12月10日。Tim Brody とサウサンプトン大学が Citebase を立ち上げる。

## 2002年

- 2002年1月1日。BioMed Central がフリーオンラインアクセスにかかる経費を賄うために処理費用の課金を開始。(FOSN 2001年12月19日号、12月26日号、2002年1月1日号参照)
- 2002年1月31日。HINARI がフリーオンラインコンテンツの配信を開始。(FOSN 2002年2月25日号参照)
- 2002年2月6日。International Scholarly Communications Alliance (ISCA) が発足。(FOSN 2002年2月14日号参照)
- 2002年2月14日。Open Society Institute が Budapest Open Access Initiative (BOAI) を立ち上げる。(FOSN 2002年2月14日号参照)
- 2002年2月25日。ミシガン大学デジタルライブラリ提供サービス部門が OAister を立ち上げる。
- 2002年4月。大学研究図書館協会 (Association of College and Research Libraries: ACRL) が独自の学術コミュニケーション活動を開始。
- 2002年4月3日。カリフォルニア・デジタル・ライブラリ (CDL) の eScholarship イニシアティブが eScholarship Repository を立ち上げる。

- 2002年5月。アフリカの Open Knowledge Network が立ち上げられる。
- 2002年5月15日。Lawrence Lessig が Creative Commons を発足。
- 2002年5月26日。Peter Suber が FOS News ブログを開始。2003年6月28日以降は Open Access News と改名。
- 2002年7月1日。BioMed Central がオープンアクセス憲章を発表し、たとえ将来所有者が変わっても長期に亘って雑誌コンテンツへのオープンアクセスを保証すると宣言。
- 2002年7月1日。アーカイビングソフトウェアの Eprints がオープンソースに移行し、GNU ソフトウェアとなる。
- 2002年7月1日。Ingenta が EPrints ソフトウェアの商用版の開発と OAI 準拠の e-プリントサービスの提供を行う計画を発表。
- 2002年8月1日。JISC-FAIR が Eprints-UK プロジェクトを開始。
- 2002年8月1日。JISC-FAIR が RoMEO (Rights Metadata for Open archiving) プロジェクトを開始。
- 2002年8月1日。JISC-FAIR が SHERPA (Securing a Hybrid Environment for Research Preservation and Access) プロジェクトを開始。
- 2002年8月1日。JISC-FAIR が TARDIS (Targeting Academic Research for Deposit and Disclosure) プロジェクトを開始。
- 2002年8月15日。CERN がドキュメントサーバを構築する OAI 準拠のオープンソースソフトウェアである CDSWare をリリース。
- 2002年8月23日。IFLA が“情報への自由なアクセス”と“情報流通に対する障壁”の除去を求める「IFLA インターネット宣言 (IFLA Internet Manifesto)」を発表。宣言を実施するガイドラインについては2006年12月の項を参照。
- 2002年9月30日。MIT が正式に OpenCourseWare プロジェクトを開始。プロジェクトは早くも2001年4月には公に報告されていた。OCWの歴史については、Web<sup>44</sup>, <sup>45</sup>を参照のこと。
- 2002年10月3日。モンリオールで行われた法律情報機関 (LIIs) の会議「Law via Internet Conference」が「法へのフリーアクセスに関するモンリオール宣言 (Montreal Declaration on Free Access to Law)」を発表。宣言は、2003年11月シドニーで行われた LIIs の会議で若干改訂された。
- 2002年10月28日。CDL の eScholarship イニシアティブとの提携により、カリフォルニア大学出版局の300以上の図書が eScholarship Editions の名の下にオンラインで自由に利用できるようになる。
- 2002年10月31日。ドイツ政府が DARE を立ち上げる。
- 2002年11月4日。MIT が e-プリントなど様々な学術コンテンツをアーカイブするため

<sup>44</sup> <http://web.mit.edu/newsoffice/tt/2002/oct02/ocw.html>

<sup>45</sup> <http://ocw.mit.edu/OcwWeb/Global/AboutOCW/pressreleases.htm>

の OAI 準拠のオープンソースソフトウェアである DSpace をリリース。

- 2002 年 11 月 4 日。商業出版社のロビー活動を受けて米国連邦政府が PubSCIENCE を停止。
- 2002 年 11 月 6 日。ドイツの複数の大学長が「ボン声明 (Bonn statement)」を発表。
- 2002 年 11 月 8 日。Public Knowledge プロジェクトがオープンソースの雑誌管理・出版ソフトウェアである Open Journal Systems をリリース。
- 2002 年 12 月 17 日。PLoS がムーア財団からオープンアクセス出版のために 900 万ドルの助成を受ける。また、同社初のオープンアクセス・ジャーナルとなる 2 誌を発表。
- 2002 年 12 月 17 日。ハワード・ヒューズ医学研究所が同所の研究者が有料のオープンアクセス雑誌で発表する際の経費を負担すると表明し、これを行う初めての助成機関となる。

## 2003 年

- 2003 年。大学、図書館、学会からなるグループが Academic Serials in Communication Unified System (ASCUS) を発足。コミュニケーション分野におけるフリーおよび低価格な学会誌のオンラインデータベースの作成を目的とする。
- 2003 年 1 月 15 日。Eldred v. Ashcroft 訴訟において、米国連邦最高裁判所は、著作権保護期間の遡及的延長、すなわち、パブリックドメインからの略奪を認める立法を合憲と判断。
- 2003 年 1 月 23 日。サウサンプトン大学電子工学・計算機科学科が、教員は研究成果を学科の 4 つのオープンアクセスリポジトリのいずれかに投稿「すること」という方針を採用。
- 2003 年 1 月 29 日。BOAI がオープンアクセス出版のための 2 つのビジネスプランを発表。1 つは新しいオープンアクセスジャーナルの創刊であり、今 1 つは既存の雑誌のオープンアクセスへの移行である。いずれも Raym Crow と Howard Goldstein が作成。
- 2003 年 1 月 31 日。SPARC が Raym Crow による「SPARC Institutional Repository Checklist & Resource Guide」を発表。
- 2003 年 2 月 14 日。BOAI が BOAI Forum を開設。
- 2003 年 2 月 26 日。米国国立衛生研究所 (National Institutes of Health: NIH) がデータ共有方針 (Data Sharing Policy) を採択。
- 2003 年 4 月 14 日。英国王立協会が報告書「科学を公開し続ける (Keeping science open)」を公開し、科学出版物へのアクセスの拡大と科学研究プロセスにおける障壁の除去のために知的財産権 (著作権、特許、データベースの権利) の改革を主張。
- 2003 年 5 月 1 日。バージニア大学とコーネル大学が FEDORA (Flexible Extensible Digital Object and Repository Architecture) バージョン 1.0 をリリース。FEDORA

の歴史についてはWeb<sup>46, 47</sup>を参照のこと。

- 2003年5月12日。ルンド大学が Open Society Institute と SPARC の助成を受け、Directory of Open Access Journals (DOAJ) を公開（2003年2月14日に初めて報告されたが、正式には5月12日まで未公開であった）。
- 2003年6月17日。JISCが英国の180大学すべてを対象とするBioMed Centralの15ヶ月間の機関会員権を購入。会員権は7月1日から発効。購入の詳細についてはWeb<sup>48</sup>を参照のこと。
- 2003年6月20日。「オープンアクセス出版に関するベセスタ声明 (Bethesda Statement on Open Access Publishing)」が発表される。
- 2003年6月26日。Martin O. Sabo 下院議員（ミネソタ州選出民主党）が「Public Access to Science Act (HR 2613)」を提出。
- 2003年7月1日。Public Knowledge がオープンアクセスプロジェクトを開始。
- 2003年7月3日。Leon Fink とその他の編集委員が『Labor History』誌を辞任し、『Labor』誌の創刊へ。独立宣言を参照のこと。
- 2003年7月4日。SPARC が Peter Suber をモデレータに SPARC Open Access Forum (SOAF) を開設。
- 2003年8月28日。大学研究図書館協会 (ACRL) がオープンアクセスを支持する「学術コミュニケーション改革のための原則と戦略 (Principles and Strategies for the Reform of Scholarly Communication)」を発表。
- 2003年9月。クイーンズランド工科大学 (QUT) が教官は研究成果を QUT オープンアクセスリポジトリへ投稿「すること」という方針を採択し、2004年1月1日から施行。大学レベルでの初のオープンアクセスの義務化。
- 2003年9月29日。Company of Biologists 社が、同社の3雑誌についてハイブリッド型オープンアクセスモデルを実験的に1年間行おうと発表。
- 2003年10月1日。複数の図書館協会と公益的アドボカシ組織のグループがオープンアクセス・ワーキンググループを発足。
- 2003年10月1日。ウェルカム・トラスト財団がオープンアクセスを支持する声明と科学報告書を発表。(SOAN 2003年10月2日号参照)
- 2003年10月7日。米国医学図書館協会 (Medical Library Association: MLA) が「オープンアクセスに関する声明 (Statement on Open Access)」を発表。
- 2003年10月13日。PLoS が同社初のオープンアクセスジャーナル『PLoS Biology』を創刊。(SOAN 2003年11月2日号参照)
- 2003年10月19日。第三世界科学アカデミー (TWAS) が科学の進歩・オープン性・協力に関する「北京宣言 (Beijing Declaration)」を発表。

<sup>46</sup> <http://www.fedora.info/history.shtml>

<sup>47</sup> <http://www.dlib.org/dlib/april03/staples/04staples.html>

<sup>48</sup> <http://www.biomedcentral.com/info/about/pr-releases?pr=20030306>



- 2003年10月21日。PubMed CentralがOAI準拠となる。(詳細はWeb<sup>49</sup>を参照のこと)
- 2003年10月22日。マックス・プランク協会 (Max Planck Society) と欧州文化財オンライン (European Cultural Heritage Online) が「自然科学および人文科学における知へのオープンアクセスに関するベルリン宣言 (Berlin Declaration on Open Access to Knowledge in the Sciences and Humanities)」を公表。(SOAN 2003年11月2日号参照)
- 2003年10月27日。学協会出版社協会 (Association of Learned and Professional Society Publishers: ALPSP) がオープンアクセスに関する公式声明を公表(その日付は明らかに ALPSP 理事会がこれを採択した2003年8月27日となっているが、10月27日までは公表されていなかった)。短いものではあるが、学会出版局にオープンアクセスの実験を勧めており注目に値する。
- 2003年12月4日。世界的な科学アカデミーのコンソーシアムである国際問題に関する学際委員会 (Interacademy Panel on International Issues: IAP) が科学情報へのアクセスに関する声明を発表。声明では“オープンアクセス”という語は使っていないが、いくつかのオープンアクセスイニシアティブを支持している。
- 2003年12月10日。英国下院科学技術委員会が科学雑誌の価格とアクセス性に関する調査を開始。調査には、政府はオープンアクセスジャーナルを支援するべきかという設問が含まれていた。
- 2003年12月12日。国連の世界情報社会サミット (UN World Summit on the Information Society) が科学情報へのオープンアクセスを簡潔ではあるが明確に支持する内容を含む理念の宣言 (Declaration of Principles) と活動計画 (Plan of Action) を採択。
- 2003年12月25日。Stevan Harnad が Institutional Self-Archiving Policy Registry を公開。
- 2003年12月31日。『Journal of Algorithms』誌の全編集委員が辞任し、『Transactions on Algorithms』誌の創刊へ。独立宣言を参照のこと。

## 2004年

- 2004年1月。25名の雑誌編集者と世界保健機関 (WHO) が公式声明「低・中所得国におけるメンタルヘルスの研究を活性化する：科学雑誌の役割 (Galvanising Mental Health Research in Low- and Middle-Income Countries: Role of Scientific Journals)」を発表。勧告の1つに各雑誌のコンテンツへのオープンアクセスの提供があった。
- 2004年1月15日。チリにおいて「電子媒体による科学コミュニケーションの改善に関するバルパライソ宣言 (Valparaiso Declaration for Improved Scientific

<sup>49</sup> <http://www.pubmedcentral.gov/about/oai.html>

Communication in the Electronic Medium) 」が公表される。

- 2004年1月20日。カナダ国立図書館 (NLC) が Theses Canada に登録された博士論文へのオープンアクセスの提供を開始。
- 2004年1月27日。高額な雑誌価格とオープンアクセスを制限する方針に抗議して『Les cahiers du numérique』誌の全編集員が辞任。独立宣言を参照のこと。
- 2004年1月30日。経済協力開発機構 (OECD) 参加の 34 カ国の政府代表が「公的助成を受けた研究データへのアクセスに関する宣言 (Declaration on Access to Research Data From Public Funding) 」を公表。起草者らのその後の活動である The Public Domain of Digital Research Data も参照のこと
- 2004年2月9日。フランスのジャン・ニコ研究所 (Institut Jean Nicod) が所員にプレプリントとポストプリントのセルフアーカイブを求める方針を採択。
- 2004年2月24日。国際図書館連盟 (IFLA) が「学術研究文献へのオープンアクセスに関する声明 (IFLA Statement on Open Access to Scholarly Literature and Research Documentation) 」を公表。この声明は 2003年12月5日の IFLA 運営理事会で採択されたが、2004年2月24日までは公表されなかった。
- 2004年3月16日。48 の非営利出版者のグループが「科学へのフリーアクセスのためのワシントン D. C. 原則 (Washington D. C. Principles for Free Access to Science) 」を公表。(SOAN 2004年4月2日号参照)
- 2004年3月26日。学協会出版社協会 (ALPSP) が「学術研究と調和した雑誌出版活動の原則 (ALPSP Principles of Scholarship-Friendly Journal Publishing Practice) 」を公表。
- 2004年4月28日。Google と CrossRef が CrossRef Search の試験運用を公表。
- 2004年5月14日。第8回図書館員・文書保管専門員・情報専門家全国会議 (ポルトガルのエストリルで開催) の参加者が「情報アクセスに関するエストリル宣言 (Declaração do Estoril sobre o Acesso à Informação) 」を公表。
- 2004年5月21日。この日ブラジルのカンピナスで開催された第2回国際デジタルライブラリシンポジウム (II SIBD) の参加者がオープンアクセスを支持する声明を公表。
- 2004年5月25日。オーストラリアの8つの先進的な研究大学からなる Group of Eight が「学術情報へのオープンアクセスに関する声明 (Statement on open access to scholarly information) 」を公表。
- 2004年6月3日。Elsevier 社が新方針を発表して、著者が自身のホームページまたは所属の機関リポジトリに同社発行の雑誌に掲載された論文の最終稿を掲載することを認める。方針は正式には6月3日に発表されたが、5月27日には公になっていた。(SOAN 2004年6月2日号、7月2日号を参照)
- 2004年6月3日。DOAJ が参加雑誌の論文レベルの検索サービスを開始。
- 2004年6月5日。米国専門図書館協会 (Special Libraries Association: SLA) が「オ

- ーブアクセスに関する声明 (Statement Regarding Open Access) 」を公表。
- 2004年6月15日。欧州委員会がヨーロッパにおける研究成果の出版システムの調査を開始。中でも、雑誌価格の高騰と研究成果のオープンアクセスが主要な調査項目であった。
  - 2004年6月19日。ブリティッシュ・コロンビア図書館協会 (British Columbia Library Association) が「オープンアクセスに関する決議案 (A Resolution on Open Access) 」を採択。
  - 2004年7月3日。Springer社がハイブリッド型の雑誌プログラム Open Choice を開始。
  - 2004年7月5日。Coalition for Actionが「教育・研究のための著作権に関するゲッチンゲン宣言 (Göttingen Declaration on Copyright for Education and Research) 」を発表。署名機関はWeb<sup>50</sup>を参照のこと。
  - 2004年7月14日。米国下院歳出委員会が国立衛生研究所 (NIH) に対し同研究所の助成を受けた研究成果を NIH の PubMed Central に登録することによりオープンアクセスとするよう求める提案を採択 (計画に関する FAQ と SOAN 2004年8月2日号を参照)。NIHは2005年2月3日にこの方針を採択し、2005年5月2日から施行。
  - 2004年7月20日。英国下院科学技術委員会が雑誌価格とオープンアクセスに関する調査に基づいた長大な報告書を発表。報告書は、助成機関に対し公的助成を受けた研究成果を著者が所属する機関リポジトリに登録することによりオープンアクセスとするよう求めることを勧告した。また、オープンアクセスジャーナルのための前金式助成モデルのさらなる研究を勧告した。(SOAN 2004年8月2日号参照)
  - 2004年8月24日。米国の多数の公益グループが税金で賄われる研究に対するオープンアクセスを支持する Alliance for Taxpayer Access を発足。
  - 2004年8月26日。米国の25名のノーベル賞受賞者が NIH のオープンアクセス計画を支持する公開書簡を米国議会に提出。
  - 2004年8月28日。第1回情報・ドキュメンテーション・図書館に関する社会フォーラム (2004年8月26日-28日ブエノス・アイレスで開催) の参加者が「情報・ドキュメンテーション・図書館に関するブエノス・アイレス宣言 (Declaration from Buenos Aires On information, documentation and libraries) 」を発表。
  - 2004年9月3日。NIHがオープンアクセス計画「Enhanced Public Access to NIH Research Information」を公表し、60日間にわたりパブリックコメントを求めた。9月17日には同文書が『官報』に掲載され、さらに60日間パブリックコメントを求めた。2005年2月3日、NIHは同方針の最終版を発表し、2005年5月2日から施行した。(同方針の手続き的な歴史に関してはFAQを参照のこと)
  - 2004年9月8日。医学雑誌編集者国際委員会 (International Committee of Medical Journal Editors: ICMJE) が薬品試験データに関するオープンアクセスのレジストリと

<sup>50</sup> <http://www.urheberrechtsbuendnis.de/unterzeichner.html.en>

データベースを要求し、さらに、会員雑誌においては未登録の薬品試験に基づく研究論文を掲載しない旨を通知する声明を発表。

- **2004年9月8日**。米国学術研究会議（National Research Council）の委員会が病原体ゲノムデータへのオープンアクセスによる利益はテロリストによる悪用のリスクを上回ると結論付ける。委員会のプレスリリースと報告書を参照のこと。
- **2004年10月5日**。Sage Publications社が同社で出版されたポストプリントを著者が個別許可なしにオープンアクセス機関リポジトリに登録することを認める新方針を採択。
- **2004年10月6日**。Googleが正式にGoogle Printを開始。これは最終的には2つのプログラム、Google Publisher プログラム（出版者との合意を元に図書をスキャン）とGoogle Library プログラム（図書館との合意はあるが、必ずしも出版者との合意はなしにスキャン）に分かれた。正式な開始に先立ち、2003年12月初頭にはベータ版が公になっていた。
- **2004年10月11日**。スコットランド科学情報戦略作業部会が「オープンアクセスに関するスコットランド宣言（Scottish Declaration of Open Access）」を公表。2004年10月11日に署名・公表されたが、2005年3月14日までは公式なものではなかった。
- **2004年10月18日**。PLoSが2番目のオープンアクセスジャーナル『PLoS Medicine』誌を創刊。
- **2004年11月5日**。イタリアの32の大学の学長が「知へのオープンアクセスに関するベルリン宣言」に署名し、「メッシナ宣言（Messina Declaration）」を公表。
- **2004年11月15日**。米国物理学協会（American Institute of Physics: AIP）がハイブリッド型雑誌プログラム Author Select を開始。
- **2004年11月18日**。GoogleがGoogle Scholarのサービス開始を発表。
- **2004年11月19日**。第3回国際自然保護連合世界自然保全会議（IUCN World Conservation Congress: 11月17日-25日バンコックで開催）が生物多様性に関するデータと知識に対するオープンアクセスを要求する「自然保護共同体の理念の声明（Conservation Commons Statement of Principles）」を公表。
- **2004年12月1日**。米国海洋大気庁（NOAA）が公的資金による研究で得られた気象、水、気候に関するデータに対するオープンアクセスと相互運用性に関する方針を発表。この新方針は営利目的の民間気象サービスの反対を受けた。
- **2004年12月1日**。海洋生物多様性情報学に関する会議（2004年11月29日-12月2日開催）の参加者がデータのフリーでオープンな共有を求める「海洋生物多様性情報学会議の声明（Ocean Biodiversity Informatics conference statement）」を発表。
- **2004年12月6日**。ポルトガルのミーニョ大学が（一部の例外を除いて）教官は研究成果を、大学院生は学位論文を大学のオープンアクセスリポジトリに登録することを義務付ける方針を採択。同方針は2005年1月1日から施行。

- 2004年12月14日。Googleが5つの大きな図書館が所蔵する何百万冊もの著作権が切れた、あるいはまだ切れていない図書をデジタル化し索引化するプロジェクトを発表。
- 2004年12月17日。オーストラリア研究情報基盤委員会 (Australian Research Information Infrastructure Committee: ARIIC) が「オープンアクセス声明 (Open Access Statement) 」を発表。

## 2005年

- 2005年1月。ENBI-GBIF デジタル化ワークショップ (2005年1月ギリシアのハニアで開催) の参加者が「フリーかつオープンなデータアクセスに関する声明 (Statement On Free And Open Data Access) 」を策定。これは2004年12月1日ハンブルグで発表された「海洋生物多様性情報学会議声明」の改訂版である。声明は2005年3月14日まで「公表」されず、2005年10月3日まで「発表」されなかった。ここで、ENBIは生物多様性情報のための欧州ネットワーク (European Network for Biodiversity Information)、GBIFは地球規模世界生物多様性情報機構 (Global Biodiversity Information Facility) である。
- 2005年1月1日。Creative Commonsが正式にScience Commonsを発足。
- 2005年1月26日。米国と国際的な複数の図書館協会が「世界知的所有権機関の国際開発アジェンダに対する図書館関連の原則 (Library-Related Principles for the International Development Agenda of the World Intellectual Property Organization) 」を公表。
- 2005年2月3日。NIHが待望の公衆アクセス方針を公表。(SOAN 2005年2月2日号参照)
- 2005年2月24日。Blackwell Publishing社がハイブリッド型雑誌プログラム Online Openを開始。
- 2005年3月1日。Berlin3会議の出席者がオープンアクセスに関するベルリン宣言を履行したいと考える機関は「研究者にすべての出版済論文のコピーをオープンアクセスリポジトリに登録することを求め」、さらに「適当なジャーナルがある場合はオープンアクセスジャーナルで研究論文を発表するよう勧め、それを実現するための支援をする」べきだとする勧告を発表。このような機関はベルリン宣言に改めて賛同や署名をする必要はなく、単にその参加を登録し、方針を記載すればよいとした。
- 2005年3月5日。SPARCが「SPARC著者添付文書」を正式に提供。これは著者が出版契約を変更し、オープンアクセスを正当化するために必要な権利を保持することを支援するものである。
- 2005年3月18日。フィンランド教育省のオープンアクセス科学出版委員会がオープンアクセスを支持し、全国的な支援と採択を勧告する報告書 (フィンランド語) を発表。

英語による抄録がある。

- 2005年4月。欧州図書館・情報・ドキュメンテーション協会連合 (European Bureau of Library, Information and Documentation Associations: EBLIDA) がオープンアクセスを支持する「ヨーロッパにおける研究成果の効率的な科学出版システムに関する声明 (Statement Towards an Effective Scientific Publishing System for European Research)」を公表。
- 2005年5月。結晶学オープンデータベース諮問委員会が「結晶学におけるオープンデータのための請願署名 (Petition for Open Data in Crystallography)」を開始。
- 2005年5月2日。NIHの公衆アクセス方針が施行される。(本方針の手続き上の歴史はFAQを参照のこと)
- 2005年5月15日。ウィーン大学情報法・法情報コースの教官が「ウィーン宣言：情報の自由に関する10テーゼ (Vienna Declaration: 10 Theses on Freedom of Information)」を公表。
- 2005年5月20日。国際デジタル地球年 (Electronic Geophysical Year: eGY) が「地球科学における情報共有の宣言 (Declaration for a Geoscience Information Commons)」を公表。
- 2005年6月。英国における研究助成の60%を受けている19の主要な研究大学を代表するRussell Groupがオープンアクセスを支持する声明を公表。
- 2005年6月17日。カナダ図書館協会がオープンアクセスを支持する決議案を採択。
- 2005年6月28日。英国研究会議が2005年8月31日を期限とするパブリックコメントを求めるオープンアクセス方針案を公表。方針は英国における実質的にすべての公的助成を受けた研究に対してオープンアクセスを義務化するものであった。(SOAN 2005年7月2日号参照)
- 2005年7月1日。オックスフォード大学出版局がハイブリッド型雑誌プログラムOxford Openを開始。
- 2005年7月21日。チューリッヒ大学がオープンアクセスの義務化を採択。
- 2005年8月16日。Springer社がオープンアクセス担当ディレクターのポストを新設し、BioMed Centralの前発行者Jan Velteropを指名。同社はこのようなポストを持つ初の商業出版社となる。
- 2005年8月20日。Open Knowledge Foundation Networkが宣言書「国有地理空間データのオープンアクセス (Open Access to State-Collected Geospatial Data)」を公表。
- 2005年9月1日。CODATAがGlobal Information Commons for Scienceの発足を公表。
- 2005年9月2日。ボストン図書館コンソーシアムが「著者の権利を拡大するための契約書 (Agreement to Extend Author's Rights)」を作成し、会員校ではこれを使用して著者の権利に関する教育を教官に施し、オープンアクセスの正当化に必要な権利の保持を支援する計画を採択。

- 2005年9月8日。英国の全大学を代表する英国大学協会（Universities UK）がオープンアクセスと英国研究会議のオープンアクセス方針案を支持する声明を発表。
- 2005年9月15日。カリフォルニア公益研究グループ（California Public Interest Research Group: CalPIRG）がオープンアクセスを支持。
- 2005年9月22日。UNESCOがオープンアクセスを明確に支持する「2006-2007年度活動計画および予算案に対する修正案」を採択。
- 2005年9月23日。第9回保健情報と図書館に関する世界会議「公平をめざして（Commitment to Equity）」（2005年9月20日-23日ブラジルのバイア州サルバドルで開催）の参加者が知へのアクセスに関する2つの宣言を発表。第1の宣言「サルバドル宣言：公平をめざして（The Declaration of Salvador - Commitment to Equity）」は政府に公平さとオープンアクセスを求めるものであり、第2の宣言「オープンアクセスに関するサルバドル宣言：開発途上世界の視点（The Salvador Declaration on Open Access: The Developing World Perspective）」は政府に公的助成による研究にオープンアクセスを要求するよう求めるものであった。
- 2005年9月30日。国際メディア・コミュニケーション学会（International Association for Media and Communication Research）が2005年11月チュニスで開催される WSIS 会議における「国際研究者憲章（International Researchers' Charter）」の採択を提案。
- 2005年10月1日。ウェルカム・トラスト財団が同財団の助成する研究に対する新たなオープンアクセスの義務化を開始。
- 2005年10月3日。Internet Archiveが世界中の営利・非営利のパートナーと共に Open Content Alliance を開始。
- 2005年10月13日。芸術・工業・商業振興のための王立協会（Royal Society for the Encouragement of Arts, Manufactures and Commerce）が「創造性・先進性・知的所有権に関するアデルフィ憲章（Adelphi Charter on Creativity, Innovation and Intellectual Property）」を発表。同憲章は知的所有権の前向きな展望を明確に述べ、オープンアクセスを支持。
- 2005年12月。フランス国土地理院がフランスにおける公的助成を受けた地理データへのオープンアクセスを勧告する報告書を発表。
- 2005年12月1日。ウクライナ議会が国策としてのオープンアクセスを確認する決議案を採択。
- 2005年12月14日。Joseph Lieberman 上院議員（コネチカット州選出民主党）と Thad Cochran 上院議員（ミシシッピ州選出共和党）が共同で NIH、疾病対策予防センター（Centers for Disease Control and Prevention）、医療研究機構（Agency for Healthcare Research）からの公的助成を受けた医学研究に対してオープンアクセスを義務化する米国内治療センター法（American Center for CURES Act of 2005）を提出。

## 2006 年

- 2006 年 1 月。欧州情報科学数学研究コンソーシアム (European Research Consortium for Informatics and Mathematics: ERCIM) が「オープンアクセスに関する声明 (Statement on Open Access) 」を公表。
- 2006 年 1 月 7 日。第 93 回インド科学会議 (2006 年 1 月 3 日-7 日ハイデラーバードで開催) におけるオープンアクセスに関するセッションでインドにとって「最適な国家的オープンアクセス方針 (Optimal National Open Access Policy) 」を作成。公的助成を受けた研究へのオープンアクセスの義務化を求めていることに特に注目。
- 2006 年 1 月 16 日。GBIF の運営委員会が前年のオープンアクセス声明 (2005 年 1 月の項を参照) を再確認して拡張する「生物多様性データへのオープンアクセスに関する勧告 (Recommendation On Open Access To Biodiversity Data) 」を採択。
- 2006 年 1 月 20 日。NSF が「21 世紀における発明を支援するサイバーインフラストラクチャ構想、第 5 版 (Cyberinfrastructure Vision For 21st Century Discovery, version 5.0) 」の中でデータに対するオープンアクセスを支持。
- 2006 年 1 月 27 日。英国のノッティンガム大学とスウェーデンのルンド大学が正式に OpenDOAR (Directory of Open Access Repositories) の提供を開始。
- 2006 年 1 月 27 日。MIT がオープンアクセスを正当化するために必要な権利を著者が保持できるように支援するために「著作権修正書式 (Copyright Amendment Form) 」を作成。
- 2006 年 1 月 30 日。ドイツ研究協会 (DFG) が DFG の助成による研究に対して被助成者はオープンアクセスを提供「するべきだ」という方針を採択。(SOAN 2006 年 4 月 2 日号参照)
- 2006 年 2 月 1 日。Wikipedia の持つ開放性に専門家による執筆者、著者性、匿名の専門家による査読を合わせた Scholarpedia の運用が開始される。
- 2006 年 2 月 17 日。Public GeoData が公的助成を受けたヨーロッパの地理データへのオープンアクセスを求めるオンライン請願署名を開始。
- 2006 年 2 月 27 日。Informatics India がオープンアクセスジャーナルの検索可能なポータル Open J-Gate を立ち上げる。
- 2006 年 2 月 21 日。クイーンズランド工科大学が Open Access to Knowledge (OAK) Law Project を組織し、2006 年 11 月 29 日-30 日に正式に発足。
- 2006 年 3 月。南アフリカ科学アカデミーがグリーン・ゴールドの両オープンアクセスを勧告する報告書を作成。特に、公的助成をオープンアクセスジャーナルへの掲載費の支払い、オープンアクセスリポジトリのネットワーク構築、リポジトリのハーベストに使用するよう求めた勧告 6 に注目。



- 2006年3月9日。Charles Arthur と Michael Cross が『ガーディアン』紙に記事を掲載し、公的助成を受けた英国の地理データへのオープンアクセスを求める Free Our Data キャンペーンを開始。
- 2006年3月31日。生物多様性条約 (Convention on Biological Diversity) の締結国会議 (2006年3月20日-31日ブラジルのクルティバで開催) が生物多様性データへのオープンアクセスを支持する声明を採択。
- 2006年4月3日。欧州委員会が公的助成を受けた研究へのオープンアクセスの義務化を求める報告書を公表。報告書の日付は2006年1月であったが、明らかに4月3日までは公表されなかった。報告書の基礎となる調査は2004年6月に開始された。(SOAN 2006年5月2日号参照)
- 2006年4月3日。カナダ保健研究所 (Canadian Institutes of Health Research: CIHR) が CIHR の助成を受けた研究をオープンアクセスとする方針を策定中であると発表。(SOAN 2006年5月2日号参照)
- 2006年4月10日。EPrints がメール依頼ボタンを追加。DSpace も翌日同機能を追加。
- 2006年4月11日。Microsoft 社が Live Academic Search の運用を開始。
- 2006年4月17日。財界びいきの米国経済開発委員会 (CEO) が NIH 方針の支持、方針のさらなる強化と他の連邦助成機関への拡大、連邦政府の助成による研究へのオープンアクセスの勧告を含む報告書を発表。
- 2006年4月17日。CODATA ワークショップ (2005年9月5日-7日にプレトリアで開催) の参加者が南アフリカの研究所にオープンアクセスアーカイビングの義務化とデータ共有の促進を求める報告書を公表。
- 2006年4月25日。Ourmedia が「オープン・メディアの理念声明 (Open media statement of principles)」を公表。
- 2006年5月。ドイツ議会が (Gerd Hansen の論文に基づいて) 署名した著作権譲渡契約の条項が何であれ雑誌出版後6ヶ月経過した論文を著者がセルフアーカイブすることを認める法案の審議を開始。(SOAN 2006年6月2日号参照)
- 2006年5月2日。John Cornyn 上院議員と Joe Lieberman 上院議員が Federal Research Public Access Act of 2006 (FRPAA) を米国上院に提出。FRPAA は連邦政府が助成したほとんどすべての研究にオープンアクセスを義務化するものである。(SOAN 2006年5月2日号参照)
- 2006年5月9日。ベルリン・フンボルト大学が「オープンアクセス宣言 (Open Access Declaration)」を採択。
- 2006年5月11日。スウェーデンが「スウェーデン国内の大学の研究者・教員・学生が生産する研究成果のアクセス可能性と視認性を最大化する」ことを目的とする全国的なオープンアクセス・イニシアティブを開始。
- 2006年5月15日。インドのルールケーラーにある国立技術研究所 (National Institute

of Technology: NIT) がオープンアクセスの義務化を採択

- **2006年5月23日**。フィンランド大学長会議がフィンランドにおけるオープンアクセスを促進する幅広い活動の支持を決議。
- **2006年5月23日**。米国人類学会 (American Anthropological Association: AAA) が同学会の出版部門である AnthroSource への影響を懸念し、FRPAA に反対する米国出版者協会 (AAP) による5月23日付の書簡に署名。一方、当事者の AnthroSource 運営委員会は FRPAA を支持する書簡を書く (2006年8月9日付け。2006年10月7日公開)。これを受けて2006年10月30日、学会は同委員会を解散した。
- **2006年5月24日**。Elsevier社がハイブリッド型雑誌モデル Sponsored-Article を開始。(SOAN 2006年6月2日号参照)
- **2006年5月31日**。『Wall Street Journal』紙が圧倒的多数のアメリカ国民が公的助成による研究へのオープンアクセスを支持していることを示すハリス世論調査を発表。
- **2006年6月6日**。Science Commons が Scholar's Copyright を提供。これは研究成果をオープンアクセスで提供するために必要な権利を著者が保持できるように著作権譲渡契約に添付する3つの「著者添付文書」である。
- **2006年6月21日**。王立協会がハイブリッド型雑誌モデル EXiS Open Choice を開始。(SOAN 2006年7月2日号参照)
- **2006年6月21日**。フランスの国立科学研究センター (Centre National de la Recherche Scientifique: CNRS) が研究者に研究論文をフランスの中央オープンアクセスリポジトリである HAL に登録することを求める方針を採択。
- **2006年6月22日**。CERN が素粒子物理学分野における有料アクセスの全雑誌をオープンアクセスに変換するプロジェクトの概要を発表。2006年11月3日の会議で計画の履行を開始。(SOAN 2006年9月2日号、12月2日号参照)
- **2006年6月25日**。iCommons iSummit for 2006 (2006年6月23-25日リオデジャネイロで開催) の参加者が「オープンアクセスに関するリオ宣言 (Rio Declaration on Open Access)」を公表。
- **2006年6月27日**。ノースカロライナ大学がオープンアクセスを正当化するために必要な権利を著者が保持できるように支援する「雑誌著者契約書 (Journal Author Agreement)」を公開。
- **2006年6月28日**。英国研究会議 (RCUK) が待望のオープンアクセス方針を発表。方針では8つの各研究会議に独自の道を採用することを認めたが、発表当日に既に3つの研究会議が自らの助成する研究に対するオープンアクセスの義務化を決定していた。(SOAN 2006年7月2日号参照)
- **2006年6月29日**。SHERPA が助成機関の採用するオープンアクセス方針のデータベースである JULIET の提供を開始。
- **2006年7月28日**。米国の25の大学の副学長が FRPAA を支持し、公的助成を受けた研

究へのオープンアクセスを求める公式書簡に署名。この書簡は相互協力委員会で作成され、同様な書簡（2006年7月31日付の Greater Western Library Alliance による書簡、2006年9月5日付の Oberlin Group による書簡、2006年9月6日付のニューイングランド大学長会議による書簡）を続々と生み出すきっかけとなった。SPARC は署名を集約し、さらに他の米国の大学の副学長や学長に署名を求める Web ベースの署名フォームを提供した。

- 2006年8月3日。BMJ がハイブリッド型雑誌プログラム BMJ Unlocked を開始。
- 2006年8月4日。(BioMed Central の親会社である) Science Navigation Group が生物医学分野以外で初めてのプロジェクトである Chemistry Central を発足。同時に、PhysMath Central の計画を発表。新しい統括組織である Open Access Central が増大する各分野のプロジェクトを調整することになる。
- 2006年8月8日。John Wiley & Sons 社がハイブリッド型雑誌プログラム Funded Access を開始。
- 2006年8月9日。タスマニア大学コンピューティング学科が教員と大学院生に対するオープンアクセスの義務化を採択。
- 2006年8月12日。ケンブリッジ大学出版局がハイブリッド型雑誌プログラム Cambridge Open Option を開始。
- 2006年8月14日。米国化学学会がハイブリッド型雑誌プログラム AuthorChoice を開始。
- 2006年8月16日。米国物理学会がハイブリッド型雑誌プログラム Free To Read を開始。
- 2006年8月20日。全米人文基金 (US National Endowment for the Humanities) が研究成果へのフリーオンラインアクセスを約束するプロジェクトに優先権を与えるガイドラインを採択。(SOAN 2006年10月2日号参照)
- 2006年8月28日。ストックホルム大学が教員は研究論文をできるだけ機関リポジトリに登録するべきであるとする方針を採択。
- 2006年8月30日。OhioLink がオープンアクセスを正当化するために必要な権利を著者が保持することを支援する「著者添付文書 (Author Addendum)」(2006年5月承認)を公開。
- 2006年9月。ドイツ研究協会 (DFG) が Informationsplattform Open Access を立ち上げる。
- 2006年9月1日。73の物理学雑誌を出版する英国物理学会 (Institute of Physics) が arXiv の新規ミラーサイトかつフロントエンドである機能を強化した EprintWeb.org を立ち上げる。
- 2006年9月7日。第2回湾岸・マグレブ科学会議 (Second Gulf-Maghreb Scientific Congress : 2006年2月25-26日サウジアラビアのリヤドで開催) の参加者が「科学・技術情報へのフリーアクセスに関するリヤド宣言 (Declaration of Riyadh for Free Access to Scientific and Technical Information)」(アラビア語とフランス語で書

かれています) を発表。英語の翻訳版は 2006 年 10 月 12 日に登場。

- 2006 年 9 月 11 日。欧州委員会と 9 つの欧州の研究機関がオープンアクセスリポジトリ上に構築した大規模な国際的知識基盤である DRIVER (Digital Repository Infrastructure Vision for European Research) を立ち上げる。
- 2006 年 9 月 23 日。Digital Universe がオープンアクセスの Encyclopedia of Earth を立ち上げる。
- 2006 年 9 月 25 日。米国植物生物学会 (American Society of Plant Biologists) がハイブリッド型雑誌プログラムを採択。
- 2006 年 9 月 28 日。Taylor & Francis 社がハイブリッド型雑誌プログラム iOpenAccess を開始。
- 2006 年 10 月。オーストラリア政府が研究品質評価フレームワーク (Research Quality Framework) に関する報告書を発表し、公的助成による研究へのオープンアクセスを勧告。
- 2006 年 10 月。新規更新された英国の電子ジャーナルのための NESLi2 モデルライセンス (Model NeSLi2 Licence for Journals) がオープンアクセスアーカイビングを認める条項 (3.1.3.13) を持つ。
- 2006 年 10 月 1 日。英国の 8 つの研究会議のうち 4 つの研究会議、バイオテクノロジー・生物科学研究会議 (BBSRC)、経済・社会研究会議 (ESRC)、医学研究会議 (MRC)、自然環境研究会議 (NERC) でオープンアクセスの義務化が施行される。前 3 者は 2006 年 6 月に、NERC は 8 月に採択していた。さらに、10 月 1 日には 5 番目の研究会議である研究会議附属中央研究所審議会 (CCLRC) でオープンアクセスの要請ないし奨励 (義務化には届かない) が施行される。
- 2006 年 10 月 1 日。ウェルカム・トラスト財団がこれまで行ってきた OA 方針を授与の日付に関係なく未了のすべての助成にまで拡大。
- 2006 年 10 月 2 日。公的助成によるヨーロッパの地理データへのオープンアクセスを勧告する欧州委員会から欧州議会への報告書が発表される。
- 2006 年 10 月 3 日。王立化学協会 (Royal Society of Chemistry) がハイブリッド型雑誌プログラム Open Science を開始。
- 2006 年 10 月 6 日。オーストリア科学財団 (Förderung der wissenschaftlichen Forschung: FWF) が FWF の助成による研究にオープンアクセスを提供することを被助成者に求めるオープンアクセス方針を採択。
- 2006 年 10 月 10 日。カナダ保健研究所 (CIHR) が CIHR の助成による研究に対してオープンアクセスを義務化する方針案を公表。
- 2006 年 10 月 11 日。フランスの有力な研究所のグループ (CEMAGREF, CIRAD, CNRS, INRA, INRIA, INSERM, IRD とパスツール研究所) がオープンアクセスアーカイブとして HAL (Hyper Article on Line) の使用に合意。すでに研究成果のオープンアクセスアーカイブ

ビングを要求していた機関（INRA）やそれを強く推奨していた機関（CNRS, INRIA, INSERM）が存在していた。

- 2006年10月12日。国境なき化学者（Chemists Without Borders）が「オープン・ケミストリーの見解表明（Open Chemistry Position Statement）」を採択。
- 2007年10月17日。Larry Sanger（Wikipediaの共同設立人）が著者の特定と専門家による査読機能を持つWikipediaの「発展的派生システム」であるCitizendiumを立ち上げる。
- 2006年10月23日。中国がオープンデータの義務化を発表。
- 2006年10月25日。JISCとSURFがオープンアクセスアーカイビングに必要な権利を著者が保持することを支援するモデルライセンスを作成。
- 2006年10月27日。メキシコ・シティで開催された会議の出席者がラテンアメリカの大学や政府にオープンアクセス方針を勧告する「メキシコ宣言（The Declaration of Mexico）」を発表
- 2006年10月30日。エール大学と国連環境計画（UNEP）が正式にOnline Access to Research in the Environment（OARE）を発足。
- 2006年11月。ベルン大学カルマン人文科学高等研究センターが今後のプロジェクトすべてにオープンアクセスを公約。
- 2006年11月。進歩的コミュニケーション協会（Association for Progressive Communications: APC）がインターネットの権利憲章（Internet Rights Charter）を改訂し、（3.3節において）公的助成による研究へのオープンアクセスを世界人権宣言の帰結として解釈するようになる。憲章の第1版は2001年から2002年にかけて策定された。
- 2006年11月。カナダのアサバスカ大学が教員に査読済みの研究論文のセルフアーカイブを求める方針を採択。
- 2006年11月1日。『European Physical Journal』の8姉妹誌がハイブリッド型雑誌モデルを採用。
- 2006年11月2日。オーストラリア政府生産性委員会が公的助成による研究へのオープンアクセスを勧告する報告書を公表。
- 2006年11月20日。Horizons Unlimited社（イタリアのボローニャ）が新しくオープンアクセスリポジトリの広範囲なディレクトリであるOpenArchives.euを立ち上げる。
- 2006年11月21日。欧州議会がINSPIRE（Infrastructure for Spatial Information in Europe）指令に関する妥協に至る。「一般社会向けに計画された」地球空間データは「通常」オープンアクセスとするが、政府機関は「天気予報など頻繁に更新しなければならないデータへのアクセス」については費用を回収するための課金を行うことができるとした。この指令は2007年夏に施行される。
- 2006年11月22日。バンガロール会議（2006年11月2-3日開催）の参加者が「途上国

向けの国家的オープンアクセス方針 (National Open Access Policy for Developing Countries)」のモデルを策定。

- 2006年11月28日。ポルトガルの大学長会議がおよそ2週間前に承認されたオープンアクセスに関する宣言を公表。
- 2006年12月1日。英国素粒子物理・天文学研究会議 (PPARC) によるオープンアクセスの義務化が施行される。方針は2006年10月19日に採択された。
- 2006年12月1日。IFLAとUNESCOが「2002年IFLAインターネット宣言 (2002 IFLA Internet Manifesto)」(2002年8月の項を参照) を実践する一つの方法としてオープンアクセスを勧告する「IFLA/UNESCOインターネット宣言ガイドライン」(2006年9月付け) を公表。
- 2006年12月4日。ブルネル大学情報システムコンピューティング・数学科が雑誌論文と学位論文に対するオープンアクセスの義務化を採択。
- 2006年12月14日。欧州分子生物学機構 (European Molecular Biology Organization: EMBO) がハイブリッド型雑誌プログラム EMBO Open を開始。

---

私のサイトにはこの年表を補足する2つの歴史的出来事のリスト (雑誌の独立宣言に関するリスト<sup>51</sup>と雑誌価格高騰に対する大学の行動に関するリスト<sup>52</sup>) がありますので参照してください。

---

ピーター・ズーバー (Peter Suber)  
アールハム大学 哲学研究教授  
Public Knowledge オープンアクセスプロジェクト・ディレクター  
SPARC 首席研究者  
[peters@earlham.edu](mailto:peters@earlham.edu)



本資料はクリエイティブ・コモンズ表示 2.5 ライセンスでライセンスされています。

---

<sup>51</sup> <http://www.earlham.edu/~peters/fof/lists.htm#declarations>

<sup>52</sup> <http://www.earlham.edu/~peters/fof/lists.htm#actions>